

製品名: KIR3.1 (リン酸化 Ser185) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04921**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

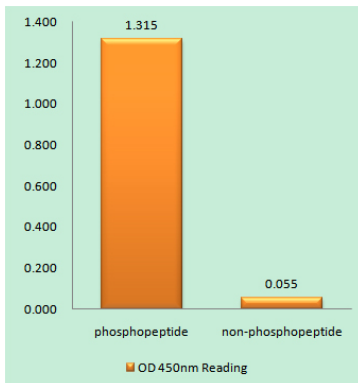
遺伝子名	KCNJ3
別名	KCNJ3; GIRK1; G protein-activated inward rectifier potassium channel 1; GIRK-1; Inward rectifier K(+) channel Kir3.1; Potassium channel; inwardly rectifying subfamily J member 3
遺伝子 ID	3760.0
SwissProt ID	P48549
免疫原	抗血清は、ヒト GIRK1/KIR3.1/KCNJ3 由来の Ser185 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

背景

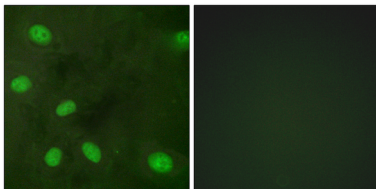
カリウムチャンネルはほとんどの哺乳類細胞に存在し、様々な生理学的反応に関与しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜貫通タンパク質であり、内向き整流型のカリウムチャンネルです。このタンパク質は、カリウムを細胞外に排出するよりも細胞内に流入させる傾向が強く、Gタンパク質によって制御され、心拍の調節に重要な役割を果たします。このタンパク質は、他の3つのGタンパク質活性化カリウムチャンネルと会合してヘテロ多量体ポア形成複合体を形成し、脳内の神経伝達物質受容体にも結合します。このチャンネル活性化は、細胞膜を過分極させることで活動電位の発火を抑制します。これらの多量体Gタンパク質依存性内向き整流性カリウムチャンネル（GIRK）は、てんかん、依存症、ダウン症候群、うつ病などの病態生理において役割を果たしている可能性があります。このカリウムチャンネルはGタンパク質によって制御されます。内向き整流型のカリウムチャンネルは、カリウムを細胞外に排出するよりも細胞内に流入させる傾向が強いという特徴があります。これらの電位依存性は細胞外カリウム濃度によって制御され、細胞外カリウム濃度が上昇すると、チャンネル開口の電位範囲はより正の電位へとシフトします。内向き整流作用は主に、細胞内のマグネシウムによる外向き電流の遮断によって生じます。この受容体は心拍の調節において重要な役割を果たします。類似性：内向き整流型カリウムチャンネルファミリーに属します。サブユニット：GIRK2、GIRK3、またはGIRK4と会合して、Gタンパク質活性化ヘテロ多量体ポア形成ユニットを形成します。その結果生じる内向き電流ははるかに大きくなります。、

研究分野

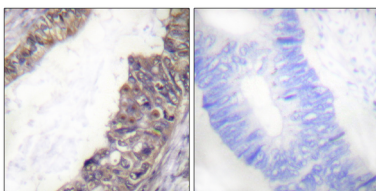
画像データ



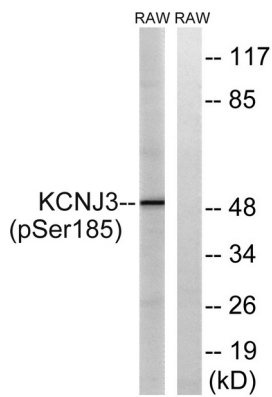
GIRK1/KIR3.1/KCNJ3（リン酸化 Ser185）抗体を用いたリン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）免疫原の酵素結合免疫吸着測定法（リン酸化 ELISA）



GIRK1/KIR3.1/KCNJ3（リン酸化 Ser185）抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



GIRK1/KIR3.1/KCNJ3（リン酸化 Ser185）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した RAW264.7 細胞のライセートを、GIRK1/KIR3.1/KCNJ3 (リン酸化 Ser185) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。